



株式会社 現代ぶろだくしょん

昭和20年5月1日に満州に向かう信州の開拓団。
何故、敗戦まぢかに行ったのか？……

映画製作に
ご協力ください

満蒙開拓団の歴史

望郷の鐘

子どもたちは生きているはずだ
満州に残した子どもたちを
早く日本に迎えなくては

「残留孤児の父」といわれた山本慈昭。
民間人でありながら、
生涯を残留孤児たちの肉親探しにささげ、
献身的な愛でささえた。
その山本慈昭をモデルにした、感動の劇映画。

「はだしのゲン」
「裸の大將放浪記」
「白い町ヒロシマ」
「キムの十字架」
の現代ぶろが贈る最新作!!

想い出は かくも悲しきものか
祈りをこめて 精一杯つけ
大陸に命をかけた 同胞（はらから）に
この鐘を送る 疾く瞑せよ
日中友好の手をつなぎ
共に誓って 悔を踏まし
大陸に命をかけた 同胞に
夢美しく 望郷の鐘

【慈昭が鐘に刻んだ詞】

「石井のおとうさんありがとう」 児童福祉文化賞受賞
「筆子・その愛 一天使のピアノ」 児童福祉文化賞受賞
「大地の詩—留岡幸助物語—」 厚生労働省社会保障審議会推薦作品

山田火砂子監督 (2011年度児童福祉文化賞特別部門受賞) 作品

原作(原作本:しなのき書房)・脚本:**和田 登** 監督:**山田火砂子**

製作:(株)現代ぶろだくしょん

製作意図

三浦綾子原作の『母』という、小林多喜二とその母の話の映画化権を頂いて、この作品を先に撮影するつもりでした。しかし、今は日本は秘密保護法案を成立させ、だんだんおかしくなっています。戦前に報道規制によって中国での真実は知らされず、満州はユートピアだと言われ大勢の民間人が中国大陸に向かいました。昭和二十年三月十日の東京大空襲以後、東京他、都市という都市は空襲によって壊滅状態となり、八月には広島・長崎へ原子爆弾を落とされて、日本は敗戦を迎えました。なのに、その昭和二十年五月一日長野県より、東京は六月末に、その他の県からも中国大陸の東北部の満州に疎開と称して出かけて行ったのです。騙されるという事は、恐ろしい事です。満州に行けば平和が待っているという話に乗せられて出かけていきました。その行った方々のほとんどは帰れなくなり、帰れないか死ぬために出かけていく…知っていたら行く人はいません。福島原発も絶対安全だと言っていますが、本当に安全なのでしょうか？原発は、安全だと信じたのよ。と言って、五十年後にやっぱり嘘だったのねならないようにと願いたいと思います。又「遠くの親戚より近くの他人」という言葉が昔からあるように、近くの中国とは仲良くして頂きたいと思い、この映画を製作致します。親と子で、仲良く見ていただけるような映画を作りたく思っています。平和ボケと言われても、平和を願ってこの作品を作ります。映画製作の基金の為に、協力券や以前に作ったDVDを販売しております。ご協力をお願い致します。

監督 山田 火砂子

あらすじ

中国残留日本人孤児は、日本政府が発動した中国侵略戦争の最大の被害者です。敗戦後、肉親と生き別れや死に別れとなりました。九死に一生を得る人生に遭遇しました人も肉親に会いたい、祖国への思いの中で四十数年の月日がたっしまいました。日本政府は無情にもこの人達を見捨てる政策をとり、死亡宣告までしたのです。一九七二年、日中の国交が回復した時、政府は直ちに孤児の肉親探し、帰国手続きをしませんでした。その中で必死に肉親探しの運動をした山本慈昭さん。慈昭さん自身も満蒙開拓団長野県阿智豪開拓団の一員として出かけ、敗戦の日シベリア送りとなり抑留された後に、日本に帰り着くと妻子は満州の地で亡くなった事を知る。ところが、娘の一人が生きていらしいと知り、最初は自分の子供を探していたが、多くの孤児の人達に出会い、他人の子供の事も考え始める。この映画は開拓団の苦悩と孤児の帰国運動に生涯を捧げた山本慈昭さんのおはなしです。

劇映画『望郷の鐘』製作協力券絶賛発売中！

この映画の製作協力券を販売いたしております。製作協力券とは、映画製作費の一部となるチケットの事です。この製作協力券一枚につき、劇場及び、現代ぷろだくしょん主催の上映にて、お一人様がお入場いただけます。当日券 1,800 円(前売券 1,500 円)のところ、製作協力券ならば一枚 1,000 円です。

また、特典として 100 枚以上ご購入頂いた方(個人、団体を問わず)は、ご希望により映画のエンディングにお名前を掲載させていただきます。

「望郷の鐘」を映画化するにあたり、1 枚でも 2 枚でもご協力いただければありがたく感謝です。

別紙DVD(個人視聴用)などお買い求め下されば感謝です。

送金先:郵便振替 口座番号:00160-5-76785 口座名義:現代ぷろだくしょん
〒161-0034 東京都新宿区上落合 2-22-23 上落合ハイツ 409 TEL:03-5332-3991 FAX:03-5332-3992